

(2) 実施内容

★=公募により参加

実施日時	令和5年12月16日(土)～17日(日)	
会場	サンエー那覇メインプレイス	
参加者数	推定 3271 名 (高校生以下 1899 名 大人 1372 名)	
わくわく体験ブース		
タイトル	ふしぎな水だんご	将来の車について学ぼう！
講師	★株式会社アール・ピー・アイ	★沖縄トヨタ自動車株式会社
内容	乳酸カルシウムとアルギン酸ナトリウムの反応からゲル状の膜を生成し、化学に親しみながら手で持てる水だんごをつくる。	電気分解して発生させた水素を使ってロケットを飛ばしての的当てを行い、遊びながら水素エネルギーについて学ぶ。
タイトル	身近にある電気について学ぼう！	ミニロボット学びプレイ
講師	沖縄電力株式会社	株式会社 OCC
内容	電気や環境に関するクイズやソーラー電池で走るミニカーを工作し、発電や電気について学ぶ。	ロボットを操作して、コンピュータに親しむだけでなく、カードでプログラムを実行させることでプログラミングの基本を学ぶ。
タイトル	深海生物の「のぞく展」	もっと知りたい海のこと、地球のこと
講師	アポロサイエンス科学実験教室	国際海洋環境情報センター (GODAC)
内容	深海生物の樹脂標本をのぞき穴のある箱に入れて展示し、深海生物の摩訶不思議な構造を見て楽しむ。	海洋酸性化について、海が酸性化する仕組みや生物への影響について、実験を通して学ぶ。
タイトル	水素を作って遊ぼう！	細胞を見よう！DNA を取り出そう！
講師	琉球大学 理学部海洋自然科学科 助教 中川 鉄水 氏	琉球大学 熱帯生物圏研究センター 准教授 高江洲 義一 氏
内容	水の電気分解から水素を自分で生成し、ラジコンを走らせて遊びながら水素エネルギーについて学び親しむ。	ブロッコリーから DNA をとりだしたり、顕微鏡でタマネギの細胞などを観察し、分子生物学に親しむ。
タイトル	土の生き物を観察しよう！	OIST へようこそ！
講師	沖縄工業高等専門学校 准教授 萩野 航 氏	沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
内容	土壌生物を観察しながら、分解者の生態系での役割や土壌生物を利用した環境評価について学ぶ。	OIST の紹介展示の他、脳の構造を模した帽子を工作して、脳の作りや働きについて学ぶ。

ふしぎな水だんご



将来の車について学ぼう！



身近にある電気について学ぼう！



ミニロボット学びプレイ



深海生物の「のぞく展」



もっと知りたい海のこと、地球のこと



水素をつくって遊ぼう！



細胞を見よう！DNA をとりだそう！



土の生き物を観察しよう！



OIST へようこそ！



ステージ		
タイトル	セイタ先生 サイエンスショー	GODAC 深海クイズ大会
講師	アポロサイエンス科学実験教室 嶺井 聖太 氏	国際海洋環境情報センター (GODAC)
内容	空気砲や回転の力、水圧など子どもたちと一緒に実験をしながら分かりやすく科学の不思議について学ぶ。	クイズ大会形式で深海について学べるステージを展開。回答の際に写真や動画を実際に見せることで理解を深めた。
タイトル	貝磨き体験会	Mr.カガック サイエンスショー
講師	しかたに自然案内	科学の風 金城 靖信 氏
内容	夜光貝を磨きながら生き物がもつ構造色に触れて色彩について学ぶ。	空気に着目した様々な実験や偏光板とテレビの関係についてなど身の回りの科学について実験をしながら学ぶ。

セイタ先生 サイエンスショー



GODAC 深海クイズ大会



貝磨き体験会

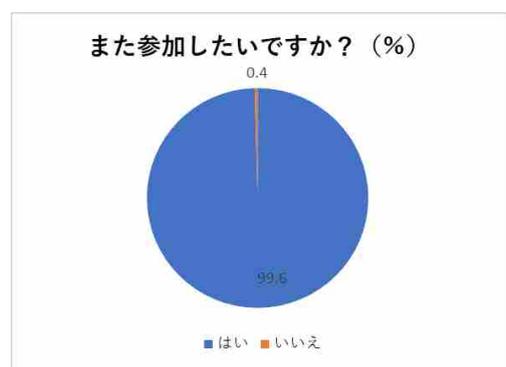
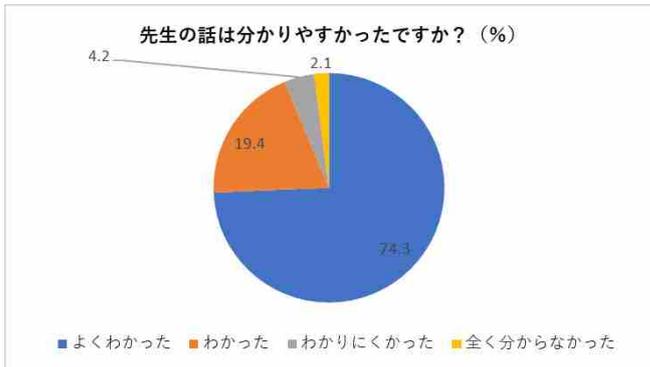
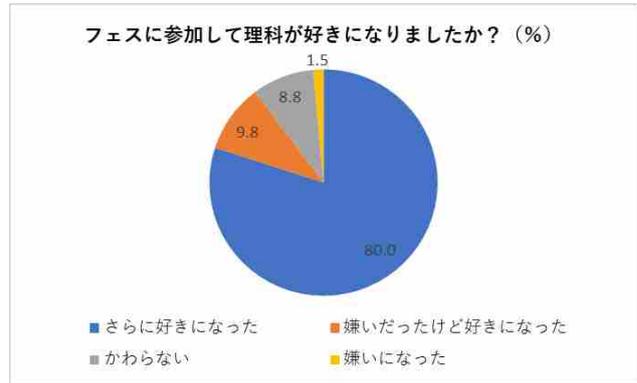
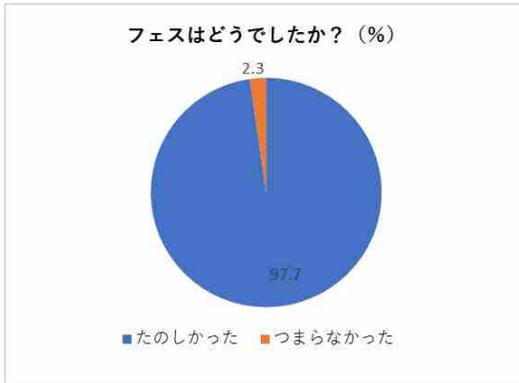


Mr.カガック サイエンスショー



(3) アンケート結果

アンケート結果を抜粋し以下掲載する。



4.1.1-3 サイエンステックフェス in ライカム

(1) 広報

チラシ・ポスターを作成し県内小学校、教育委員会、図書館等への配布、LINE での配信を行い周知した。(発行部数：チラシ 21000 部 ポスター 400 部)



(2) 実施内容

実施日時	令和6年1月13日(土)～14日(日)	
会場	イオンモールライカム	
参加者数	体験ブース：推定 5740 名（高校生以下 3186 名 大人 2554 名） 深海ふしぎ展：推定 3132 名（高校生以下 1602 名 大人 1530 名）	
わくわく体験ブース		
タイトル	臨床検査体験をしよう！	オリジナル鏡をつくろう！
講師	一般社団法人沖縄臨床検査技師会	琉球科学教育研究会
内容	輸血で血液型が重要なのはなぜなのか学べる血液検査の体験や、寄生虫の展示と解説、顕微鏡体験などを展開。	試験管の中で鏡を合成して、鏡がどうやって作られているのか実験をしながら学ぶ。
タイトル	ミニロボット学びプレイ	深海のフシギを楽しく学ぼう！
講師	株式会社 OCC	国際海洋環境情報センター (GODAC)
内容	カードでロボットにプログラムを命令して実行させることでプログラミングの基本を学ぶ。	クイズや水圧実験を通して深海について学ぶ。また深海展とも連動させることでより理解を深める。
タイトル	OIST へようこそ！	
講師	沖縄科学技術大学院大学 (OIST)	
内容	OIST 紹介の展示のほかに、永遠に回る「カライドサイクル」を作成して、構造の不思議に迫る。	

臨床検査技体験をしよう！



オリジナル鏡をつくろう！



ミニロボット学びプレイ



深海のフシギを楽しく学ぼう！



OISTへようこそ！



全体の様子



特別展	
タイトル	深海のふしぎ展
協力	国際海洋環境情報センター（GODAC） / アポロサイエンス科学実験教室
内容	思わず覗きたくなるボックスの中に深海生物の樹脂標本を設置して、本物の深海生物に触れる。また、深海写真のパネル展示も行い深海への興味関心を向上させる。展示エリアの後半ではさらに深海について学べる映像の放映や、JAMSTEC が提供するデータベースでの検索コーナーなども設け、深海について学べる特別展とした。

標本展示



深海写真のパネル展示



JAMSTEC データベース（J-EDI）検索コーナー



映像放映



GODAC 紹介

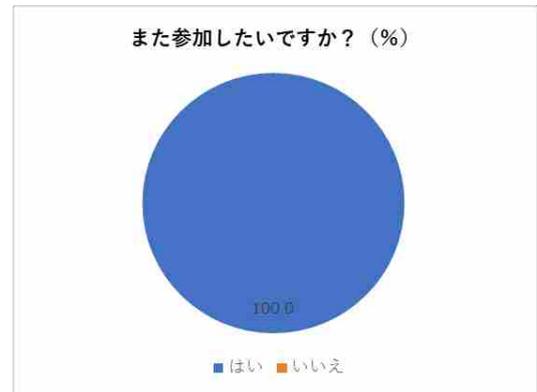
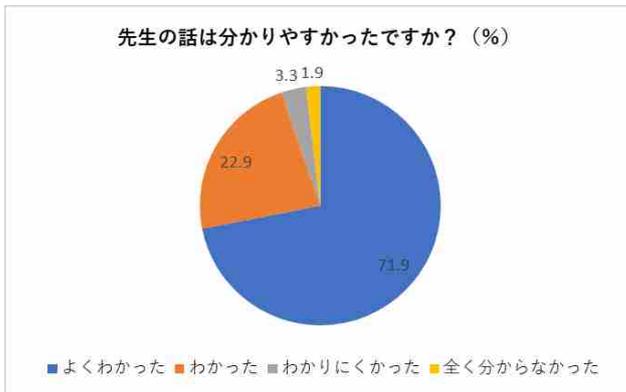
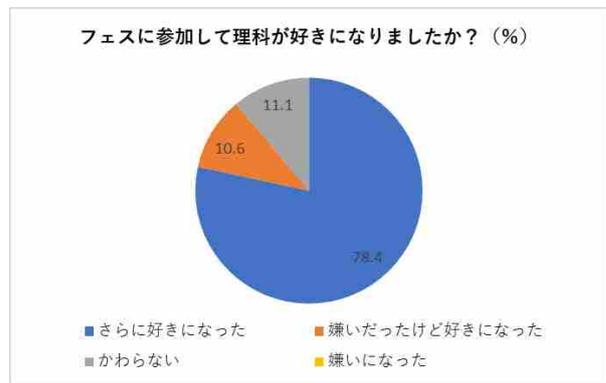
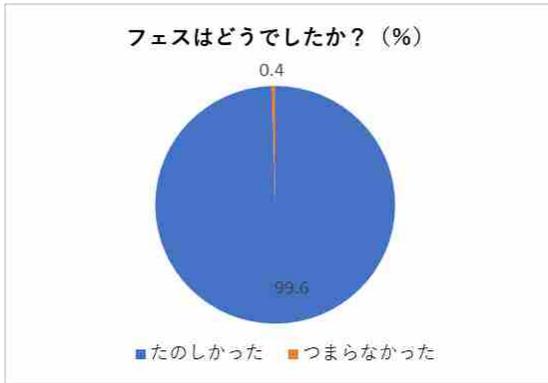


ステージ		
タイトル	セイタ先生 サイエンスショー	ライカム水槽 特別生き物講座
講師	アポロサイエンス科学実験教室 嶺井 聖太 氏	OSC 株式会社
内容	空気砲や回転の力、水圧など子どもたちと一緒に実験をしながら分かりやすく科学の不思議について学ぶ。	水槽にいる生物の中から何種かピックアップして、魚のライフサイクルや生存戦略など紹介した。
タイトル	Mr.カガック サイエンスショー	
講師	科学の風 金城 靖信 氏	
内容	空気に着目した様々な実験や偏光板とテレビの関係についてなど身の回りの科学について実験をしながら学ぶ。	



(3) アンケート結果

アンケート結果を抜粋し以下掲載する。



4.1.1-4 サイエンスフェスティバル in もとぶ

(1) 広報

チラシ・ポスターを作成し県内小学校、教育委員会、図書館等への配布、LINE での配信を行い周知した。(発行部数：チラシ 12000 部 ポスター400 部)

沖縄県委託事業 令和5年度子ども科学技術人材育成事業
サイエンスフェスティバル in もとぶ
 理科をもっと好きになるイベント！サイエンスフェスティバル in もとぶが 参加無料
 本郡町にやってくる！みんなで遊んで、感じて、学ぼう！

1日目 わくわく体験ブース
 ロボット操作や科学工作、科学実験など小さい子から大人まで楽しめるブースをご用意しています！ブースの詳細についてはホームページで随時更新しますのでご確認ください。

2日目 ときどきステージ
 大人気な空気砲など、見て楽しんで科学の不思議を学べちゃうサイエンスショーを行います！
 ①10:00-10:30 ②16:00-16:30

オリジナルポストカード
 会場内でシールラリーを開催！シールをあつめてオリジナルポストカードをゲットしよう！会場では好きなポストカードを1枚選んでね！

2024.2.18 (日)
10:00~16:30
 (12:00~13:00お昼休憩)
 もとぶ文化交流センター

参加するお友達へ誘おう！
 ・安全より危険な科学実験や実験器具の取り扱いに気づいてください。
 ・従事しない場合は退避していただく場合があります。
 ・当日、体調に不安がある方は参加を辞退してください。
 ・参加費は、お友達の参加費とさせていただきます。参加費内にて費用を判断いただくことができます。
 ・本イベント開催中は身障者の移動を行います。ご来場にはご留意ください。

お問い合わせ先
 一般財団法人 沖縄県立児童生協会 (担当：山崎・大城)
 〒901-1212 沖縄県那覇市東区東2-1-1 (那覇駅3分) 202
 TEL: 099-945-2696 FAX: 099-945-3973 MAIL: info@okagaki.or.jp

主催・後援等
 主催：沖縄県立児童生協会 琉球大学
 後援：沖縄県教育委員会 琉球大学
 協力：沖縄科学技術大学院大学

沖縄県委託事業 令和5年度子ども科学技術人材育成事業
サイエンスフェスティバル in もとぶ

わくわく体験ブース 大ホール

ステージ

出入口

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

① ミクロの世界はめざましい！
顕微鏡で覗いてみよう！
目に見えないミクロの世界を体験！ミクロの世界を顕微鏡で覗いてみよう！
① 顕微鏡の使い方
② 顕微鏡の観察
③ 顕微鏡のメンテナンス
講師： 琉球大学、那覇大学 (琉球大学)

② 臨海体験をしよう！
「臨海体験」ってどんなものかな？
臨海体験をしよう！
① 臨海体験の準備
② 臨海体験の体験
講師： 琉球大学 (琉球大学)

③ 中身の秘密に迫ろう！
中身の秘密に迫ろう！
中身の秘密に迫ろう！
① 中身の秘密に迫ろう！
② 中身の秘密に迫ろう！
③ 中身の秘密に迫ろう！
講師： (一財) 沖縄県立児童生協

④ OISTへようこそ！
OISTへようこそ！
OISTへようこそ！
① OISTへようこそ！
② OISTへようこそ！
③ OISTへようこそ！
講師： OIST (沖縄科学技術大学院大学)

⑤ 色とりどり科学工作をしよう！
色とりどり科学工作をしよう！
色とりどり科学工作をしよう！
① 色とりどり科学工作をしよう！
② 色とりどり科学工作をしよう！
③ 色とりどり科学工作をしよう！
講師： 琉球大学 (琉球大学)

⑥ 緑の山で実験しよう！
緑の山で実験しよう！
緑の山で実験しよう！
① 緑の山で実験しよう！
② 緑の山で実験しよう！
③ 緑の山で実験しよう！
講師： 琉球大学 (琉球大学)

⑦ シュークリーム作りをしよう！
シュークリーム作りをしよう！
シュークリーム作りをしよう！
① シュークリーム作りをしよう！
② シュークリーム作りをしよう！
③ シュークリーム作りをしよう！
講師： 琉球大学 (琉球大学)

⑧ 深層生物の「のぞく」
深層生物の「のぞく」
深層生物の「のぞく」
① 深層生物の「のぞく」
② 深層生物の「のぞく」
③ 深層生物の「のぞく」
講師： 琉球大学 (琉球大学)

お祝い！
小学校低学年以下のお子さんには必ず保護者の方が付き添って体験していただくようお願いいたします。

(2) 実施内容

実施日時	令和6年2月18(日) 10:00~16:30	
会場	もとぶ文化交流センター	
参加者数	502名(高校生以下257名 大人245名)	
わくわく体験ブース		
タイトル	ミクロの世界は面白い！ 顕微鏡で覗いてみよう！	臨床検査体験をしよう！
講師	琉球大学 准教授 梅村 正幸 氏 准教授 金野 俊洋 氏	一般社団法人沖縄臨床検査技師会
内容	自身の口内環境や身近なものを顕微鏡で観察しミクロの世界に親しみ、学ぶ。	輸血で血液型が重要なのはなぜなのか学べる血液検査の体験や、寄生虫の展示と解説を行い科学と臨床検査の世界を体感する。
タイトル	サメの歯の秘密にせまろう！	OISTへようこそ！
講師	一般財団法人沖縄美ら島財団	沖縄科学技術大学院大学(OIST)
内容	どのくらいのサメが沖縄には存在し、サメの歯にはどんな種類や特徴があるのか標本も使いながら学ぶ。最後にはサメの歯のレプリカを作成。	OIST紹介の展示のほかに、永遠に回る「カライドサイクル」を作成して、構造の不思議に迫る。
タイトル	色々なエネルギーを体験しよう！	ミニロボット学びプレイ
講師	琉球大学 名誉教授 清水 洋一 氏	株式会社 OCC
内容	自転車発電やペルチェ素子発電、風力発電など様々な発電を通してエネルギーについて体感し学ぶ。	カードでロボットにプログラムを命令して実行させることでプログラミングの基本を学ぶ。
タイトル	軽石の山で宝探し！	緑のボトル調査隊！ シーエーシーオー3を探せ！
講師	株式会社南都 大石林山	名桜大学 国際学部 田代 豊 氏
内容	軽石に点在する鉱物を探しながら、軽石の成り立ちなどを学ぶ。	沖縄を形作る炭酸カルシウム(CaCO ₃)はどんなものなのか、実験をしながら学ぶ。
タイトル	深海生物の「のぞく展」	
提供	アポロサイエンス科学実験教室	
内容	深海生物の樹脂標本をのぞき穴のある箱に入れて展示し、深海生物の摩訶不思議な構造を見て楽しむ。	

ミクロの世界は面白い！



臨床検査体験をしよう！



サメの歯の秘密にせまる！



OIST へようこそ！



色々なエネルギーを体験しよう！



ミニロボット学びプレイ



軽石の山で宝探し！



緑のボトル調査隊！シーエーシーオー3を探せ！



深海生物の「のぞく展」

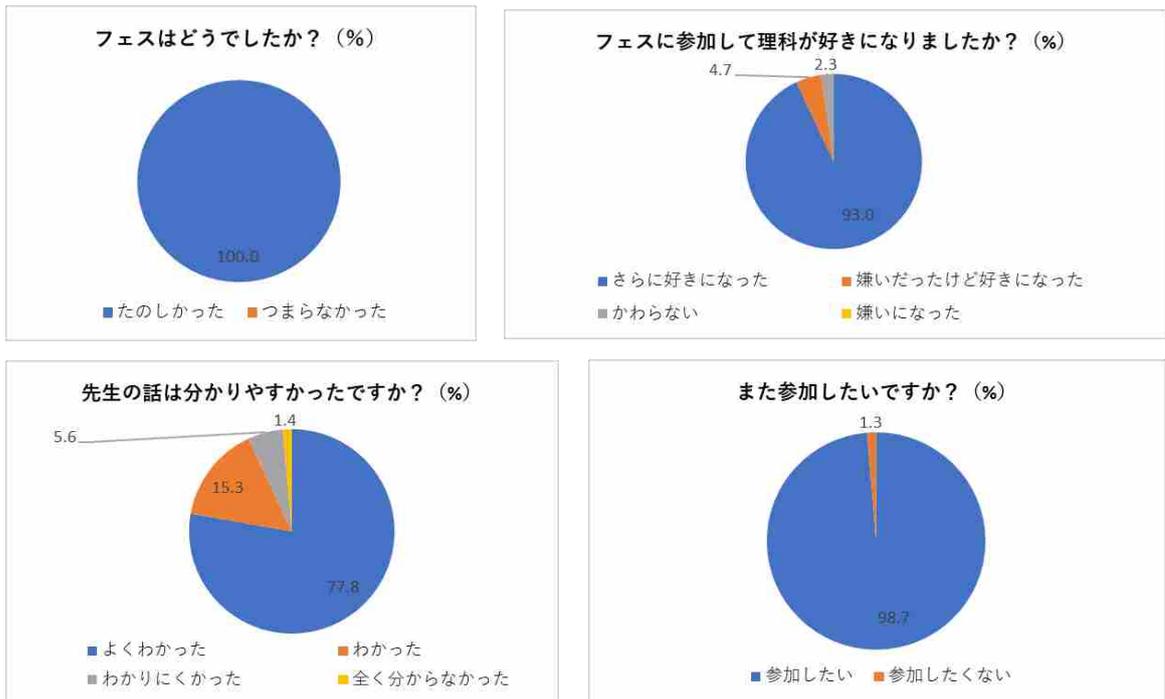


ステージ	
タイトル	セイタ先生 サイエンスショー
講師	アポロサイエンス科学実験教室 嶺井 聖太 氏
内容	空気砲や回転の力、静電気など身近なものを例に子どもたちや保護者も巻き込んで、一緒に実験をしながら分かりやすく科学の不思議について学ぶ。



(3) アンケート結果

アンケート結果を抜粋し以下掲載する。



4.1.2 中学生及び高校生向けイベント

科学技術に関する短時間の体験プログラムや、キャリア支援の一環として理系進学者の特別講演会を2023年12月17日(日)に沖縄県立博物館・美術館にて行った。

(1) 広報

小学生向けイベント「サイエンステックフェス in 那覇」の広報用チラシとともに県内の高等学校や教育委員会等へ広報を行った。また、サイエンストークのチラシを作成しLINEにて配信した。

サイエンステックフェス in 那覇 2023.12.16(土)・17(日)

理科がもっと好きになるイベント！
サイエンステックフェスが今年も開催にやってくる！
親子や友達同士で遊んで、感じて、学ぼう！

サイエンストーク 2023.12.17(日) 15:00-17:00

理系に進んだ人ってどんなことをしてるの？何がきっかけで理系に？どんな子ども時代を過ごしてた？根拠り、セイト先生が聞き倒す！おきみゆ〜講演へみんな集合しよう！

対象：中学生・高校生・高専生 ※小学生、保護者の参加も大歓迎！

2023.12.17(日) 15:00-17:00 参加費 無料 先着 200名

事前申込は12/15(金)まで！(定員内であれば当日受付も可)

(2) ミニ科学プログラム実施内容

A) バックヤードツアー

講師	沖縄県立博物館・美術館 学芸員 生物担当 菊川 章 氏 ・地学担当 新山 颯大 氏
受講者数	計 13 名 (中学 1 年生 7 名 中学 3 年生 2 名 高校 2 年生 4 名)
内容	展示会の準備で使用する展示準備室、ポスター等を作成する工作室、生き物の標本が保管されている液浸標本室、動物の剥製標本や骨格標本が保管されている自然史収蔵庫や貴重な化石が多く置いてある化石収蔵庫、作業場等の見学を行った。自然史収蔵庫では、研究結果を保証する証拠としての重要な役割をする重要標本や押花標本などが収蔵されており、押花標本は大正時代の新聞に挟まれ、大事に保管されている様子などを見学した。また、石灰岩をはじめ、水晶、メノウ、黒雲母、貝殻等の見学も行った。アンモナイトの化石は宝石としての価値も認められ、色によってランクが決まるという話には参加者も興奮の様子であった。標本には、採取した日・場所等を記したラベルがあることが重要であり、ラベルが無いと価値が下がることなども学んだ。また、施設を移動する際に作品運搬用のフォークリフトも一緒に乗れる大型のエレベーターに参加者全員で乗るなど、普段見学することができない博物館の裏側や学芸員の仕事をよくききかけとなった



B) 海洋科学を学ぼう～深海への挑戦～

<p>講師</p>	<p>国際海洋環境情報センター（GODAC） サイエンスコミュニケーター 小寺 克己 氏</p>
<p>受講者数</p>	<p>計 14 名（中学 1 年生 4 名 中学 2 年生 4 名 中学 3 年生 2 名 高校 1 年生 2 名 高校 2 年生 2 名）</p>
<p>内容</p>	<p>はじめに、JAMSTEC の深海映像や海洋研究データを活用した、GODAC の情報発信業務について紹介を行った。また、やんばる世界自然遺産に登録されたことで、アジア初の、気候変動や災害メカニズムなど多くの学問分野が関係している、自然史科学研究拠点の国立自然史博物館が沖縄に誘致決定されたことや、海洋科学の分野には、海洋物理学、海洋化学、海洋生物学、地質学の 4 つに分類されることを紹介した。海洋科学歴史においてはイギリスのチャレンジャーによって、科学的海洋調査が行われた 1872 年に遡り、日本では 1929 年に海洋科学技術センターが設立され、1932 年に第一号の潜水船が開発された。その後、水圧を克服した浮力材の、シンクティックフォーム（100μ 以下のガラスマイクロバルーンをエポキシ樹脂で固めたもの）やメタクリル樹脂（沖縄美ら海水族館の水槽）を使ったガラス、チタン合金など、さまざまな技術が開発されたことで安全な深海調査行えるようになったことなど深海研究の歴史を学んだ。さらに、深海圧力装置をつかった、水圧実験を体験も行き深海について深く学ぶ内容となった。</p>



C) 人工知能をつくってみよう

講師	沖縄工業高等専門学校 安里 健太郎 氏
受講者数	計 23 名 (小学生 1 名 中学 1 年生 8 名 中学 2 年生 6 名 中学 3 年生 3 名 高校 1 年生 3 名 高校 2 年生 2 名)
内容	最初に人工知能とは何か?について講義を行い、人間が出したハンドサイン(グー、チョキ、パー)を認識して、①出したハンドサインを真似するロボット、②出したハンドサインに応じて、前進や後進をするロボットに、正確にハンドサインを認識させるための方法について体験を通じて学んだ。ロボットに正確に認識させるためには、データの与えた方が重要であり、例えばグーとパーの区別をさせる場合、教え方がまずいと単に面積のみでの判断となってしまうため、距離や向きを工夫するなど、ロボットへの学習のさせ方について試行錯誤を通じて学んだ。各受講生とともに講師とTAのアドバイスのもとに、どうすれば想定した通りの動きをロボットにさせることができるかを興味深そうに学んでいた。



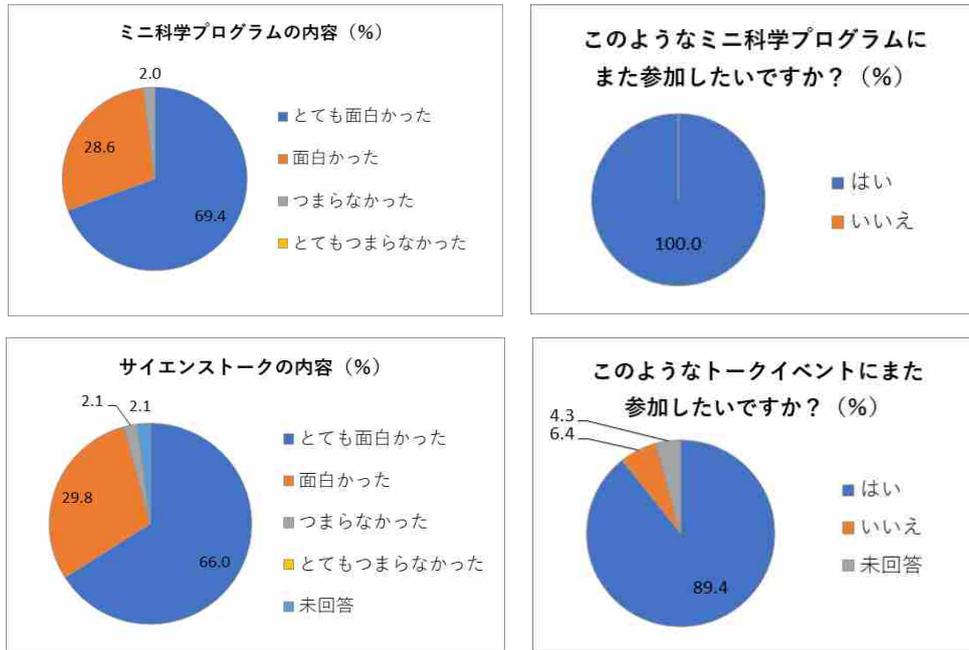
(3) サイエンストーク実施内容

実施日時	令和6年2月17(日) 15:00 ~ 17:00
会場	沖縄県立博物館・美術館 講堂
登壇者	日本トランスオーシャン航空株式会社 技術部 波平 克 氏 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所 国広 潮里 氏 沖縄科学技術大学院大学(OIST) 博士課程学生 與世山 倫可 氏 司会進行：アポロサイエンス科学実験教室 嶺井 聖太 氏
参加者数	63名
内容	理系へ進学した3名をゲストに現在の仕事や研究内容の他に、幼少期の過ごし方や大学の決め方など彼らがどのような人生を歩んできたのかトーク形式で展開した。そして、進路選択のコツやモチベーションの保ち方など、来場者の今後の進路の後押しとなるよう展開した。また、アンケートからも、「身近な人(沖縄の出身の方)の話というのが、身近に可能性を感じられてよかった」、「好きなことをするのは難しいと思っていたが、実際に実現している人の話を聞いて自分にもできるかもしれないと進路の幅が広がった」といったコメントがあり、一定の効果が得られたものと伺える。



(4) アンケート結果

アンケート結果を抜粋し以下掲載する。



4.2 科学技術啓発期間

令和5年11月11日(土)から12月17日(日)を科学技術啓発期間として、教育機関や研究機関等の紹介やそれらにより実施されている個別の科学技術イベントを周知強化する期間を設けた。期間中はチラシの配布ならびに、LINEにて情報発信を行い情報の周知を行った。

(1) チラシの配布

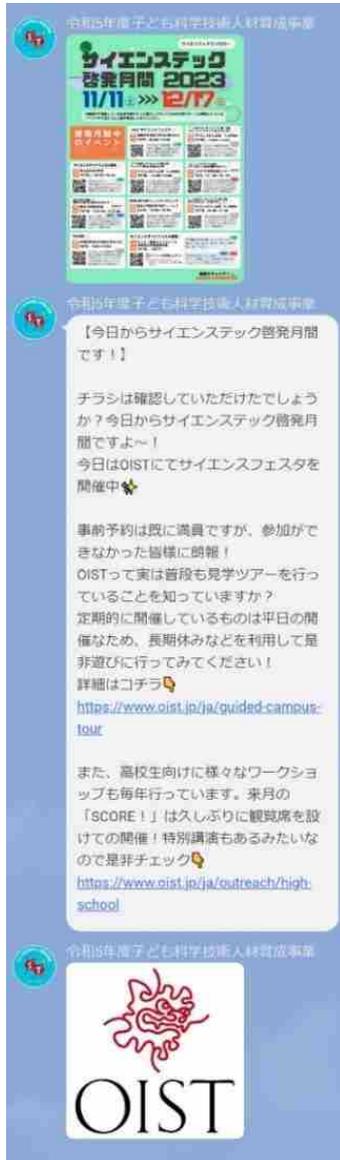
県内の小学校、中学校、高等学校ならびに教育委員会、図書館や協力機関を通してチラシの配布を行った。(発行部数：チラシ200,000部)



(2) LINE の配信

期間中に計 17 通の配信を行った。配信内容については以下のとおりである。

11/11



令和5年度子ども科学技術人材育成事業

サイエンステック 啓発月間 2023
11/11 >>> 12/17

【今日からサイエンステック啓発月間です！】

チラシは確認していただけたでしょうか？今日からサイエンステック啓発月間ですよ～！今日はOISTにてサイエンスフェスタを開催中🌟

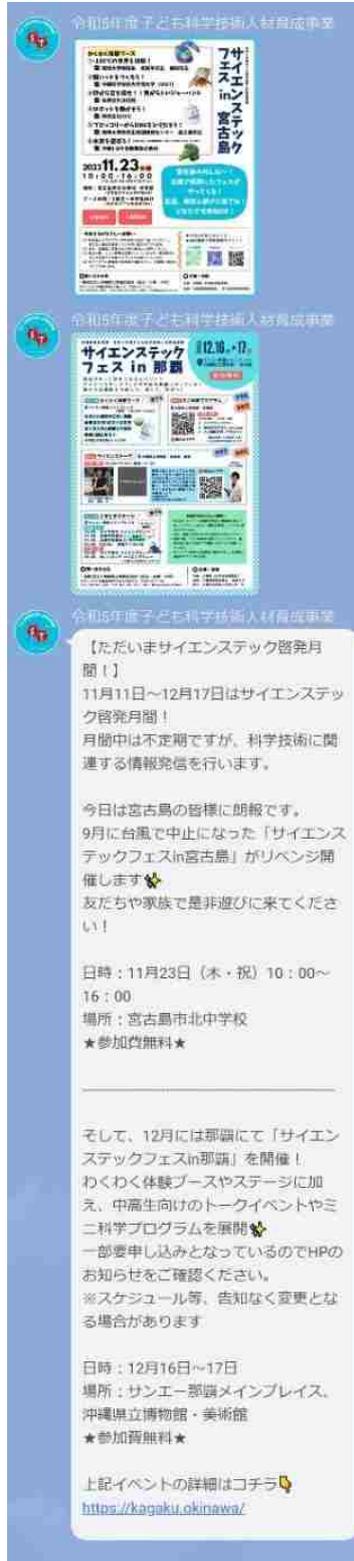
事前予約は既に満員ですが、参加できなかった皆様へ朗報！OISTって実は普段も見学ツアーを行っていることを知っていますか？定期的で開催しているものは平日の開催のため、長期休みなどを利用して是非遊びに行ってみてください！
詳細はコチラ👉
<https://www.oist.jp/ja/guided-campus-tour>

また、高校生向けに様々なワークショップも毎年行っています。来月の「SCORE！」は久しぶりに観覧席を設けての開催！特別講演もあるみたいなので是非チェック👉
<https://www.oist.jp/ja/outreach/high-school>

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



11/13



令和5年度子ども科学技術人材育成事業

7サイエンスin宮古島

2023.11.23
19:55-20:00
宮古島市立北中学校

【ただいまサイエンステック啓発月間！】

11月11日～12月17日はサイエンステック啓発月間！月間中は不定期ですが、科学技術に関連する情報発信を行います。

今日は宮古島の皆様へ朗報です。9月に台風で中止になった「サイエンステックフェスin宮古島」がリベンジ開催します🌟友だちや家族で是非遊びに来てください！

日時：11月23日（木・祝）10：00～16：00
場所：宮古島市北中学校
★参加費無料★

そして、12月には那覇にて「サイエンステックフェスin那覇」を開催！わくわく体験ブースやステージに加え、中高生向けのトークイベントやミニ科学プログラムを展開🌟一部要申し込みとなっているのでHPのお知らせをご確認ください。
※スケジュール等、告知なく変更となる場合があります

日時：12月16日～17日
場所：サンエー那覇メインプレイス、沖縄県立博物館・美術館
★参加費無料★

上記イベントの詳細はコチラ👉
<https://kagaku.okinawa/>

11/15



令和5年度子ども科学技術人材育成事業

GODAC 施設一般公開 2023
11.23

【ただいまサイエンステック啓発月間！】

11月11日～12月17日はサイエンステック啓発月間！今日紹介するのは名護市にある国際海洋環境情報センター（GODAC）！

「しんかい6500」と聞いたらピンとくる方も多でしょうか。日本の海洋研究を牽引するJAMSTECの膨大な研究・観測データを集積・公開するためのデータベースシステムを整備・運用している機関です。また、JAMSTECの研究成果を通して「海と地球のふしぎ」を学んでいただける施設見学も無料でできます🌟
詳細はコチラ👉
<https://www.jamstec.go.jp/godac/godac/index.html>

令和5年度子ども科学技術人材育成事業

そして来週は、3年ぶりに「GODAC施設一般公開2023」が開催されます！参加して海の不思議をたくさん学びませんか？

開催日：11月23日（木・祝）
場所：GODAC（名護市宇豊原224-3）

★参加には事前予約が必要です。以下の申込フォームよりお申し込みください。
<https://docs.google.com/forms/d/e/1F-AjpQLScsOL-VoDeSg3DDDNM-Jzpx1sQTMZ-bRR1eXZe49dKNIS7hybA/viewform>

★イベントの詳細は各種SNSで発信しています。

①ホームページ
<https://www.jamstec.go.jp/godac/godac/>

②Facebook
<https://www.facebook.com/GODAC.JAMSTEC/>

③Instagram
https://www.instagram.com/godac_jamstec

11/17

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンスデッキ啓発月間！】
11月11日～12月17日はサイエンスデッキ啓発月間！
期間中は不定期ですが、情報発信を行っています。

今日は、切迫近！ドローンプログラムのご案内！

12月2日（日）は高校生向けボトムアップ体験プログラム「ドローン&プログラム体験！テクノロジー×社会の関わりを知ろう！」を開催します🌟
こちら、応募締め切りは明後日11/19（日）です。

自分で作ったプログラムでドローンを自動飛行させてみませんか？まだの人、応募お待ちしております！

応募先：
<https://forms.gle/Lh95Yoa36zw1mNujZ>

11/20

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンスデッキ啓発月間！】
11月11日～12月17日はサイエンスデッキ啓発月間！
今日紹介するのは今年4月にOPENしたばかり！沖縄市にあるサイエンスカフェ広場「りっかRIKA」🌟

月間チラシにもいくつかイベント情報を掲載していますが既に満員だとか...でも予約できなかった皆さんに朗報！

りっかRIKAでは不定期ではありますが、ほぼ毎月リアルイベントを開催しています！（1月のイベントも既に決まっているとか...?）
りっかRIKAのイベント情報はFacebookまたはInstagramにて情報発信しているみたいなので是非チェック👏

Facebook：
<https://www.facebook.com/sciencecafeekoza/>

Instagram：
<https://www.instagram.com/sciencecafeekoza/>

気軽に科学に不思議さや面白さを一緒に楽しんで、悩んで、考えよう！
不定休なので営業しているかどうかを調べてから是非訪問してみてください👏

11/22

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンスデッキ啓発月間！】
11/11～12/17がサイエンスデッキ啓発月間！今日紹介するのは琉球大学農学部付風亜熱帯フィールド科学教育研究センターが主催する「第20回千原フィールドワークショップ」🌟

年1回、琉大農学部にある千原フィールド（農場等）を利用したワークショップです。琉球の歴史や農学に関するプログラムを体験することができます！

こちらまだ空きが若干あるそうなので、興味のある方は是非参加して見てください。

申込先：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSciUldT9Krm6JGed4ZBZNuVekSYTYdctA1h_p0QTyOLXmrT4g/viewform

11/24

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間！
今日紹介するのはクジラに関するシンポジウムです🐋

毎年冬から春にかけて繁殖・子育てのため沖縄周辺海域に來遊するザトウクジラの保全、及び持続可能な観光資源利用について、より広く一般に普及することを目的として、「沖縄ザトウクジラシンポジウム2023～優良閣諸島国立公園の取り組みに学ぶホエールウォッチングのこれから～」を開催します！
事前予約不要、参加無料となりますので皆様参加してみたいかがでしょうか？

日にち：2023.12.2（土）17:00開演（20:00終了予定）
場所：沖縄コンベンションセンター会議棟A1
主催：環境省沖縄奄美自然環境事務所
共催・企画：（一財）沖縄美ら島財団

<https://churashima.okinawa/event/1700012298/>

11/27

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です！
今日は本事業のお知らせです🌟

高校生向けハイレベル型体験プログラム「サイエンステックカレッジ冬」が1月に開催されます。
今回は「生感学コース」と「脳科学コース」の2コース！OISTの博士課程学生と一緒に選い3日間を過ごしましょう🌟

日付：2024/1/21（日）、27（土）～28（日）
対象：県内在住の高校生・高専生（1～3年生）
参加費：1000円
※後半は泊2日です。
※離島参加者へは旅費の補助があります。

★生感学コース
シロアリを中心とした沖縄の生物を調べて、その分布から生感学や保全について考えるプログラム
★脳科学コース
グッズを用いた運動実験を行い、脳の解剖学や運動野について学ぶプログラム

募集要項：
https://kagaku.okinawa/si/data/highschool_highlevel_winter.pdf
申込先：
<https://forms.gle/VKSP3i4u7AvMAMd05>

11/29

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です！
今日紹介するのは「琉球科学教育研究会」です🌟

琉球科学教育研究会は科学実験を通して理科が苦手な生徒をなくすとともに、変化の速いこれからの社会を生き抜くために必要とされている資質・能力を育成する機関です！琉球大学で行われている「琉大ハカセ塾」や「琉大カカク院」の知見を活用したプログラムを提供しています。
月間チラシに掲載したプログラムは既に満員のごとですが、毎月定期的に教室を行っており、その都度参加者を募集していますので、是非HPを確認して参加してみてください🌟

ホームページ：
<https://ryukyusciencestudy.wixsite.com/ryukyuscience>
Instagram：
<https://www.instagram.com/ryukaken0322?igahid=YmMyMTA2MZY%3D>

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です！
今日は「サイエンステックフェス in 那覇」で開催する中高生向けにミニ科学プログラムのお知らせ！こちらはまだ参加費募集中です！

実施日：12月17日（日）①10：30～11：30 ②13：00～14：00
場所：沖縄県立博物館・美術館
対象：沖縄県内在住の中学生・高校生・高専生（3年生まで）
申込締切：2023年12月6日（水）
※申込者多数の場合、抽選にて決定します。抽選結果は1月初旬にお知らせします。
※定員はプログラム一錠を参照
参加費用：無料（保険料は主催者負担）
※交通費は各自でご負担ください。

申込はコチラから：
<https://forms.gle/WzW2RbNwLjHoySGM9>

まだまだ空きがありますので、少しでも気になった人は是非お申込みください！

令和5年度子ども科学技術人材育成事業

実施プログラムはコチラ！

A) バックヤードツアー
県立博物館・美術館の裏側を学芸員の案内と共に見学します。博物館や学芸員の役割は何か、表に見えない場所には何があるのか見ていきます。午前の部は生物学、午後の部は地学分野でお届けします。
講師：沖縄県立博物館・美術館 学芸員 宮川 章 氏（朝山 飛火 氏）

B) 海洋科学を学ぼう～深海への挑戦～
実際の深海に関する映像や実験を通して、海洋科学分野からの深海への挑戦について、その歴史や発展、未知なる深海とそこに生きる生物について学びます。
講師：国際海洋環境情報センター（GODAC）

C) 人工知能をつくらせてみよう
Teachable Machineというソフトを使用して実際に人工知能（AI）を作成し、それを使ってロボットを制御する実践形式の体験授業を行います。
講師：沖縄工業高等専門学校 教授 安里健太郎 氏

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です！
今日紹介するのは啓発月間終了後のものです。

国立科学博物館 巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」が昭和薬料付属大学付属高校創立50周年記念特別企画として実施されます！
これまでにノーベル賞を受賞した日本人25人（科学分野）のノベルと、幼少期のエピソード、研究論文や直筆メモ、子どもたちへのメッセージ等が展示されます。

【期間】令和5年12月18日（月）～28日（木）
【時間】午前9時～午後4時
【場所】本校エントランスホール
【その他】観覧無料、駐車場あり
※期間内は土日もご覧いただけます。

主催：昭和薬料大学附属高等学校・中学校
共催：独立行政法人国立科学博物館
協力：全国科学博物館、一般財団法人全国科学博物館振興財団
後援：浦添市教育委員会

HPはコチラ：
<https://www.showavakka.jp/ed.jp/50th/1699586557/>

是非遊びに行ってみてください！

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間！
今日の紹介は琉球大学にて開催しているプログラム。

琉球大学では科学技術や科学研究、社会課題を解決する研究に対して強い興味関心・適性を持つ小中学生・高校生への体系的な教育プログラムの提供や調査・研究活動および成果発表支援を通して、次世代の社会を担う人材の早期育成に取り組んでいます！

実施プログラムは主に3つ！
①琉球カカク院（対象：高校生）
これからの科学技術イノベーション立国を支える卓越した人材の発掘と育成を目指し、科学分野に卓越した意欲や能力を持つ高校生を対象とした、国際的な活動を含む高度で体系的なSTEAM型科学教育プログラムを実施しています。
募集時期：4～5月頃
実施時期：7～12月
紹介はコチラ： <https://jisedai.sku.ac.jp/ryukyuu.ac.jp/kagaku/>

令和5年度子ども科学技術人材育成事業

②琉大ハカセ塾（対象：小学生・中学生）
科学の分野に非凡な才能を持つ児童、生徒を発掘し、その個性や能力を育成するため、最先端の教育方法を取り入れたSTEAM型教育プログラムを実施します。
募集時期：4～5月
実施時期：8月～翌年2月
詳細はコチラ： <https://jisedai.sku.ac.jp/ryukyuu.ac.jp/hakase/>

③琉球リケジョ
沖縄県及び奄美地域の女子中学生や教員、保護者を対象に理系分野への気づきから、より確かな理系進路へ繋がる段階的なプログラムや講演会等の提供を行っています。琉球リケジョに参加して、5年・10年後の自分の未来を描いてみませんか？
募集時期：不定期にイベントを開催
詳細はコチラ： <https://jisedai.sku.ac.jp/ryukyuu.ac.jp/rikejo/>

④は長期型のプログラムなので、学校の勉強じゃ物足りない人にとってもおすすめです！
是非HPをチェックしてみてください。

12/8

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間！
今日の紹介はプログラミング教室を中心に展開している「CoderDojo」です

非営利のプログラミング道場で、沖縄県には9つ道場があります。道場によって運営スタイルは異なりますが、ScratchやMinecraft、Mindstorms、micro:bit、Progate、C-Style、HP制作などに対応している道場があります！

県内の各Dojo一覧はこちらから
<https://coderdojo.jp/#dojos>

以下一部紹介です

- ★CoderDojo 名護
主な実施：Scratch/toio/micro:bit/Drone/3Dプリンター
<https://coderdojo-nago.connpass.com/>
- ★CoderDojo 着手納
主な実施：Scratch/Mindstorms/ラズベリーパイ
<https://coderdojokadena.hatenablog.jp/>
- ★CoderDojo 沖縄
主な実施：Scratch
<https://coderdojo-okinawa-pia.hatenablog.com/>
- ★CoderDojo 浦添
主な実施：Scratch/Progate/Minecraft/Mindstorms/C-style
<http://www.coderdojo-urasoe.com/>
- ★CoderDojo 那覇
主な実施：Scratch/Webサイト/Rudy/JavaScript/micro:bit
<https://coderdojo-naha.doorkeeper.jp/>

各サイトで何をやっているのか是非確認してみてください

12/11

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です。
月間も残り1週間ですね！今日は今週末開催のSCORE!の紹介です。

沖縄科学技術大学院大学 (OIST) が主催する「SCORE!」が今年は久しぶりの観覧席を設けての開催！県内の高校生が自身の研究テーマについて、ビジネスプラン等を提案して競いあいます。

12月16日 (土) 9:30-17:00
会場：沖縄科学技術大学院大学 講堂

また今年のSCORE!では高校生の発表だけでなく特別講演が実施されます。

特別講演：次世代のリーダーの皆さんへ～何のために生まれてきたのか？～
壇上者：比屋根 隆 氏
(株式会社レキサス代表取締役/Ryukyufrogs創設者/株式会社うむさんラボ代表取締役)

予約不要、参加無料です！是非足を運んでみてください

HP:<https://groups.oist.jp/ja/score>

12/12

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間です！

今週末のサイエンステックフェス内で行われる「サイエンストーク」の全ての登壇者が決定しました！
理系に進んだらってどんなことをしてるの？何がきっかけで今の道に？どんな子ども時代を過ごしてた？根拠り葉振り、セイタ先生が聞き倒す！！おきみゅ～講堂へみんな集合しよう！

実施日：12月17日 (日) 15:00～17:00 (14:15開場)
定員：先着200名
事前申込締切：2023年12月15日 (金)
参加費用：無料

★司会・ファシリテーター★
アポロサイエンス科学実験教室 セイタ先生
★登壇者★
①一般財団法人沖縄美ら島財団 国広 潮里 氏
②日本トランスオーシャン航空株式会社 波平 克 氏
③沖縄科学技術大学院大学 與世山 倫可 氏

事前申込はこちら：
<https://forms.gle/MXJkJOPhGQYucm6>

みなさまの参加お待ちしております！

12/13

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



令和5年度子ども科学技術人材育成事業

【ただいまサイエンステック啓発月間！】
11/11～12/17はサイエンステック啓発月間！
今日紹介するのは、沖縄美ら島財団が展開する「美ら島自然学校」です🌿

美ら島自然学校は、旧名護市立嘉陽小学校の跡地を活かして、2015年に開校しました。美ら島自然学校のある沖縄本島北部は「やんばる」と呼ばれ、固有種を含め様々な動植物が生息する豊かな環境です。
この豊かな自然を活かして、沖縄の動植物や歴史文化に関する学習会、観音会や講演会の開催だけでなく、常設している書籍の閲覧や海の生きものの標本観察の利用もできちゃう施設です🌿

イベント参加だけでなく、学習施設としても是非利用してみてください！

HPIはコチラ：
<https://churashima.okinawa/churashize/>

12/15

令和5年度子ども科学技術人材育成事業



令和5年度子ども科学技術人材育成事業



令和5年度子ども科学技術人材育成事業

【啓発月間もそろそろ終盤！】
月間中の情報発信は今日が最後となりました。みなさん楽しんでいただけたでしょうか？
これをきっかけに、沢山の子どもたちが科学に触れる機会を増やしていくことができたら幸いです。

さて、いよいよ明日からは「サイエンステックフェスin那覇」が始まります🌿ブース体験やステージにトークイベントなど盛りだくさんのイベントとなっております。

また、シールラリーの景品にはオリジナルポストカードを用意しています！3種類ととっても素敵なデザインとなっておりますので、是非シールラリーにも参加してみてください。

★ブース体験
場所：サンエー那覇メインブレイス
オープンモール・オープンモールテラス
時間：毎日10：30-16：00

★ステージ
場所：サンエー那覇メインブレイス
オープンモールテラス
時間：画像参照

★サイエンストーク
場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
時間：15：00-17：00（14：15開場）
※先着200名
※今日まで事前予約を受付ています
事前予約：
<https://forms.gle/yE9TjubCBBow3XQh9>
※空きがあれば当日受付可

5. その他の取組

5.1 公式 LINE の開設

事業やプログラムなどの周知強化の一環として LINE for business を活用した公式 LINE を開設した。以下、登録者の変化である。(2023.7.1~2024.2.29)



※ターゲットリーチ = 友達登録者数 - ブロック数

6. 総括

本事業の目的を達成するために、OIST 等の高等教育機関、研究機関、企業等との連携により、受講生の興味関心レベルや成長段階かつ難易度別のプログラムを展開してきた。それにより、科学技術に興味・関心の高い受講生の能力を伸ばすと同時に、興味・関心の低い受講生に対しては、科学技術に対する抵抗感の払拭や興味・関心をもてるようなプログラムを展開するなど、科学的思考力の向上に繋げる工夫をし、将来の沖縄県の科学技術、産業の振興を担う科学技術系人材の育成を目指した。また、より多くの県民が科学技術を体験できる科学イベントでは、開催日や開催場所の追加を行うことで、県内の子どもたちへ「科学の芽」を育て“広げる・つなげる・深める”場として科学コミュニケーションの機会を創出した。

本年度事業報告の最後に振り返りと今後の課題について以下にまとめる。

<高校生向け>

① ハイレベル型体験プログラム

本プログラムでは「分子生命科学（遺伝子）」「情報工学」「生態学」「脳科学」の4分野からコースを設け、計29名（定員各8名）の高校生・高専生が参加した。応募の際に各コース指定のテーマを設け、800字程度の小論文を課題とし、定員に対して同程度の応募があった。小論文に対して、「書けない」と辞退する者もいたが、一定の難易度があったことから非常に意欲の高い生徒が集まった。参加者の保護者からも、「高校生で400字だと意外と簡単に書けてしまうため、丁度良い難易度であった」という言葉も直接いただき、妥当であったと感じる。しかしながら応募倍率はあまり高くなく、今後、どのようにハイレベル型プログラムへ興味をもつ人を増やせるかが課題である。プログラム内容の再検討に加え、SSH校や進学校との連携による周知・広報の強化も検討する必要がある。

また、3日間のプログラム内容については「丁度良いレベルだった（75.9%）」が一番多く、概ね妥当な内容レベルであったと考える。一方で、今後の課題として、プログラム分野の多様化や内容の充実があげられる。課題解決のために、プログラムの企画、講師の選定、プログラムスケジュールなどを再検討する必要がある。

② ボトムアップ型体験プログラム

本プログラムでは、「OIST見学」「イノー観察」「ドローン操縦」の3プログラムを設け、計49名（定員各20名）の高校生・高専生が参加した。OIST見学の応募数は多かったが、他の2プログラムについては定員と同程度の応募となった。

アンケートから各プログラムへの満足度は非常に高いことが読み取れるため、プログラム内容については、妥当であると考えられる。一方で、高校生は部活動や勉学等で多忙な中、自身の将来選択に対しての効果を踏まえてプログラム参加を検討していると思われるため、より魅力的なプログラムとするため、高校生にとって興味・関心度の高いプログラムを再検討するとともに、周知・広報についても再検討が必要と考える。

<中学生向け>

① ハイレベル型体験プログラム

本プログラムでは、「生態学」「ロボット工学」「畜産学」「感染症・免疫学」の4分野からコースを設け、計20名（定員各5名）の中学生が参加した。中学生向けでは、応募の際に各コース指定のテーマにて400字程度の小論文を課題としていたが、定員に対して1.8倍と想定以上の応募があり、受講者の選定方法としては妥当な難易度であったと考える。また、事前に小論文を設けることで、参加者が何に対して興味をもっているのか、講師が事前把握することでプログラムをよりスムーズに進めることができた。

3日間のプログラム内容については「丁度良いレベルだった（65.0%）」が一番多く、次に「レベルが高かった（難しかった）（30.0%）」となり、やや難易度の高い内容であったと考えられるため、プログラム内容の難易度は維持しつつも、受講者の理解がより高まるような手法を模索する必要がある。今後の課題としては、高校生向けと同様にプログラム分野の多様化や内容の充実である。明確な将来像が定まっていない人が多数である中学生だからこそ、多様な最先端分野に触れる機会を創出することは、彼らの将来の幅が広がることへつながる。こちらも同様に、プログラムの展開方法について柔軟に検討する必要がある。

② ボトムアップ型体験プログラム

本プログラムでは、「細菌の培養」「川の探索」「植物観察・光化学」の3プログラムを設け、計58名（定員各20名）の中学生が参加した。どのプログラムも定員の2~3倍の応募があり、高校生よりも応募倍率が高かった。アンケート結果からは、プログラムに対する満足の高さが読み取れる。自由記述の回答の中で「学校では体験できないこと（が体験できた）」、「理科実験に対するイメージ化（理科ではどのように実験が行われるのかがよく分かった）」といったコメントがあり、学校以外の場でも理科の楽しさを体験できる機会を本事業で創出したことで、理系に進む児童の増加に寄与したものと考える。

<未就学児・小学生向け>

① 高学年向けボトムアップ型体験プログラム

本プログラムでは、「月観測」「研究施設見学」の2プログラムを設け、計40名（定員各20名）の小学生が参加した。いずれも応募数は200~300名と圧倒的に多かった。小学生向けのプログラムは基本的に保護者が申し込みを行うため、保護者の熱心さが読み取れる。一方で、参加者自身の関心が薄い児童も一定数おり、ボトムアップ型体験プログラムの趣旨に沿ってはいるものの、プログラムへの集中を欠き、安全面の観点から配慮を要する場面があった。今後、安全面の観点も踏まえ、プログラムの定員やスタッフの人員配置を検討する必要がある。

プログラム内容については、アンケート結果から満足度の高さが伺えたため、今後も多様な分野で展開することで、より広い分野に興味関心を向ける子どもたちの増加が期待できるだろう。

② 未就学児から小学校低学年向けボトムアップ型体験プログラム

本プログラムでは、離島10島と本島24施設にて様々な低年齢向けプログラムを実施し、計1311名の児童生徒および保護者等へプログラムの提供を行った。対象年齢を明確化したことで実施内容のレベル設定がしやすく、講師との連携もスムーズに行うことができた。各プログラムで子どもたちが集中し

て取り組む様子が見られ、妥当な実施時間であったと考える。また、アンケート結果からは、「楽しかった」「また参加したい」という回答が非常に多く、年齢層にふさわしい実施内容で展開ができたと考える。

一方で、アンケート調査について、対象年齢が低いことから、より正確な調査結果を得るために効果的な方法を検討する必要がある。

<小学生向け科学イベント>

本イベントでは、宮古島市、那覇市、北中城村、本部町の4市町村にて計6日間のイベントを開催した。ステージと体験ブースの棲み分けを明確にしたことで、各ブースへ大きな支障もなくスムーズに行進することができた。また、ステージエリアの活用の工夫として、サイエンステックフェス in 那覇においては、定員制の体験をステージ合間の時間に入れることで、場所の有効活用ができた。しかし、参加者の受付を当日としたことで、参加希望者の集まりが芳しくない状況でもあった。周知の際に、事前申込制、当日抽選というスタイルにすることで、来場者も増えることから有効的だと考える。

また今回、サイエンステックフェス in 那覇では計10ブースの展開に対して、サイエンステックフェス in ライカムでは、会場規模の都合上、計5ブースでの開催とした。予想される来場者数からブースが混み合うことが懸念されたが、列整理を行うことで大きな混乱もなく終えることができた。また、出展団体を厳選することで、本イベントを目的とした来場者はもちろん、そうでない家族連れ等から、会場内の内容について問い合わせも多く、多様な方に興味・関心を引くイベントとなったことが伺える。また、どのブースも常に賑わっているように視覚的に感じ取れることから、より活気があふれているように見えることも一つの利点であった。那覇ではブース数が多いが故に、視覚的に目立つブースに人が集まり、そうでないブースは素通りしてしまうという状況も見られた。改善点として個々のブースや会場全体の装飾、レイアウトにだけでなく、ブースや実施範囲の集中化についても検討の余地がある。

今年度は計4か所にて開催したが、やはりショッピングモールでの開催は多様な来場者があり本イベント趣旨に沿った場所であると感じた。宮古島市や本部町でも多くの参加者に足を運んでもらえたが、初めから本イベントを目的とする方の参加が多かったため、多様な方へアプローチするために今後は、離島と北部域において、ショッピングモールに限らず適した会場を柔軟に模索する必要がある。

<中学生及び高校生向け科学イベント>

本イベントでは、那覇市での小学生向けイベントと連動して開催し、実験操作などを体験できる「ミニ科学プログラム」と、キャリア支援の一環とする「サイエンストーク」の2構成で展開した。事前申込制での実施としたが、なかなか人が集まらなかった。しかし、アンケート結果からは満足度の高い結果が見られ、ミニ科学プログラムでは全員が「また参加したい」と回答していたことから、内容設定は妥当であったと考える。サイエンストークでも、高評価な記述も多く、またモチベーションアップにつながった中高生も多かったことから、キャリア支援の一環として妥当なテーマであったと考える。

個別プログラムについても前述している通り、中学生及び高校生は多忙な中、自身の将来選択に対して効果があるかどうか考えて参加を決めている。内容設定の妥当性は高いことから、早期の周知や、内容が伝わりやすい周知の工夫など、キャッチフレーズなども考える必要がある。

・まとめ

本年度の事業では、周知・広報の手段として、学校を通してのチラシの配布に加え、新たに LINE というツールを導入し、効率的で効果の高い手法について模索してきた。今後はさらに、学校で運用している情報発信ツールの調査や連携を上手く行うことで、より多くの子どもたちへ情報発信ができるのではないかと考える。

また、科学技術の社会実装を子どもたちへ実感させ、将来の職業選択の後押しとすることを目的に民間企業との連携も重視し、今年度は JTA 日本トランスオーシャン航空株式会社や RPI 株式会社、OSC 株式会社など新たな民間企業との連携を行うことができた。民間企業との連携を模索するうえで見えてきた課題としては、民間企業側が持つコンテンツを本事業の趣旨に沿ったプログラムに調整を要することやステークホルダーの異なる期待に応えるために、1つのプログラムを作るのに何重ものプロセスが必要という企業も多く、連携に時間を要することなどがあげられる。連携する民間企業を増やしていくためには、民間企業に対して本事業を周知していくことはもちろん、民間企業が科学技術に関するプログラムを展開するためのサポート体制を整える必要がある。そして、さらに連携可能な県内企業を発掘することで、沖縄全体で沖縄の未来を担う人材育成を行うとともに、最終的な県内就職による沖縄県への還元へと繋がっていくと考える。

沖縄県では、新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画において科学技術イノベーションの創出と次世代を担う持続可能な産業の振興を掲げている。経済のグローバル化、AI や IoT 等の先端技術による第 4 次産業革命など、社会経済情勢の変化に対応し、本県の持続的発展を実現していくため、一人ひとりの多様な能力を育て、力強く未来を拓く人づくりを目指していることから、本事業は非常に重要な事業であると考えられる。結びに本事業を終了するにあたり、未来を拓く子どもたちが沖縄県や国の社会を支える力として科学技術の道に進むことを期待したい。